

# 我が国で売春事犯に関係した 外国人女性の実態調査報告書

財団法人 **社会安全研究財団**  
外国人女性売春問題調査研究委員会

## はじめに

女性や子供が強制されたり、騙されたりして日本に入国させられ、売春などの性的な労働に従事させられているという事件が相変わらずマスコミなどで報道されている。このことは、いわゆるトラフィッキングの問題が、我が国でも発生し続けているということを示している。トラフィッキングといえるかどうかは別として、最近、我が国では、性的な仕事に携わる外国人女性の数は減少傾向にあるとはいえ、暴力や搾取による彼女らへの人権の侵害の度合いは、むしろ悪化の傾向にあるそうである。

このことは、非合法的な組織、もしくは特定の個人が、彼女らを「性奴隷」のように扱い、そのことによって莫大な利益を上げているということである。どのように考えても、このようなことは決して許されることではない。さらにいうならば、このようなことが、我が国のどこかで行なわれているということは、国際的に考えても、非常に恥ずかしいことである。

私は、昨年まで総理府の男女共同参画審議会の暴力部会に属していたので、トラフィッキングの問題や、女性に対する人権の侵害の問題については、何度か専門家から教えてもらう機会があった。そして、彼らのお話を聞く度に、そのような事実が、しかも我が国で行なわれているということに、いいようなない強い憤りを感じていた。

今回、社会安全研究財団から外国人女性の売春の問題について研究をしてみないかというお話があった時、私は直ぐにそのお誘いを受けた。というのは、かねがね私は、私の専門である社会心理学の立場から、その問題に私なりの貢献ができないものかと思っていたからである。

そして、昨年6月の委員会において委員長を任されることになってしまった。身に余る大役であった。

この報告書は、関係機関・団体など多くの方々のご協力を得て実施することができた、いくつかの調査結果をまとめたものである。いたらないところも多々あるかと思われるが、今回の研究結果が、少しでも皆様方の研究やお仕事の参考になれば望外の幸せである。

最後に、今回の一連の研究にご協力いただいた全ての方々に、ここで心からのお礼を申し上げたい。

外国人女性売春問題調査研究委員会  
委員長 中里至正

## 目 次

I	本研究の目的	1
1	問題意識	1
2	研究の目的	1
3	調査の方法	2
4	調査の期間	2
5	研究チームのメンバー	2
II	調査結果	3
1	我が国における実態調査の結果	3
1)	調査の目的・対象・方法など	3
2)	対象者の国籍・身上など	4
3)	渡航過程について	5
4)	入国後の行動などについて	9
5)	クロス集計による分析結果	16
6)	まとめ	22
2	関係者に対する面接調査結果	23
1)	調査の目的	23
2)	女性の家・HELPでの調査	23
3)	在日タイ王国大使館での調査	27
4)	まとめ	31

3	タイ王国での面接調査結果	3 3
1)	調査の目的	3 3
2)	関連施設での調査	3 4
3)	元セックス・ワーカーに対する調査	3 8
4)	まとめ	4 4
III	結論と若干の提言	4 9
1	全体を通しての結論	4 9
2	若干の提言	5 1
IV	参考文献と参考資料	5 2
資料 1	実態調査に用いた調査票	5 3
資料 2	実態調査の単純集計結果	5 9
資料 3	国内での面接調査に用いた調査ガイド	8 8